

---

**【JAPIC】ウィークリー・レポート【第47号】'10/09/16発行**

---

社団法人日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）事務局

JAPIC 事務局より、毎週木曜日にウィークリー・レポートとして、活動報告と併せて委員会開催予定などをお届けします。

**【今回のピック】****◆ 日本創生委員会タスクフォース グローバル人材育成 Table 発足**

9月8日（水）、日本創生委員会の6つめのタスクフォースとして、「グローバル人材育成 Table」（通称：GH-Table、主査 小島順彦 三菱商事(株)取締役会長）が発足、第1回研究会を開催。

今般、日本の課題である成長戦略において、ビジネスの海外展開は必至である一方、将来を担う人材育成の重要性は高く、創生委員会でも度々指摘されてきた。

そこで、創生委のタスクフォースとして、日本を代表する企業(11社)、大学(東大、京大他国立、私立計6校)、経産省、文科省が一同に会する、史上初の研究会を設置。「世界で活躍できる、グローバル人材育成」「産学融合で育てる戦略議論」「大学院教育の実践化、国際化」を目的として、戦略的議論を行う。

本 Table では、あるべき理念整理にとどまらず、制度設計まで踏み込み、政治への働きかけによって、実現化を図る。

第1回研究会では、藤原章夫氏(文部科学省 高等教育局 大学振興課長)より、大学院教育改革の成果と課題、成長を牽引する教育拠点形成事業等、最近の同省の施策について、説明の後、質疑応答、意見交換を行った。グローバル人材育成への問題意識として、学生、教員、企業という3者について共有した。学生については、英語力、ディベート力について、国際競争力が劣っている。近年、TOEICの得点はかなり上がっているが、コミュニケーション力、内容が伴っていない。教員については、アカデミアの中で、教育と研究のバランスを共通化する。企業については、就活時期の早期化により、学生は授業、研究を疎かにしがちで、ましてや海外には行っていないという発想になり、教育のグローバル化を妨げているというもの。

そこで、コミュニケーションツールとしての英語力、ディベート力強化に加えて、教養などの社会基礎力の醸成も重要で、大学はその役割を果たしているか、また、企業側が求める学生像と大学、学生側のマッチングはできているかなど活発な議論が行われた。

本 Table は、海外ビジネス戦略策定をテーマとする、創生委のタスクフォース IB-Table とも、連携しながら進めていく。

第2回会合は、10月25日(月)、開催予定。